

テクニックが明かす驚異的な生産カーフロン

早いフロン回収スピードが、なぜ必要なのか？ ————— ターゲットはR410A

「フロン回収・破壊法」施行から約15年の歳月が経ちました。何か変だ？と思うのは私だけでしょうか。プライドを持った技能者達が首をかしげ、営業の方々も価格だけの競争に疲れているように見えます。2015. 4から「改正法」がスタートしますが、疲労が蓄積しつづけることが心配です。

新たなフロン回収ステージを迎えるにあたり少し元気を取り戻す話をさせてください。

ご存じの通り、一般の汎用回収機では生産能力に限りがあるうえ、使用過程で圧力の上昇や外気温度でさらに生産能力が下がることは説明するまでもないはず、思い起こしてください。

ポンペを頻繁に交換したり、ポンペを冷やしたり、汎用の冷却ツールを使用しても圧力に悩まされ続け・・・。

そして今後主流となるR410A回収の生産性を上げるには不十分ではないでしょうか？

提供する回収ツールがこれらの問題を解決、いいえ、問題視することなく目的をめざすとしたら。

表1. では汎用回収機の能力が倍以上に上がることを示しています。

こんな使い方をしたら不安になるかもしれませんが、そんな時はリゾームホームページトップの動画をご覧ください。

能力を倍以上にすると何が起こるか？

ドライアイスを使用するこの回収ツールは二日にまたがる工事に驚異的な効果を発揮します。

上記のご説明で回収能力が倍以上になりました。

表2. をご覧ください。ここでは2日間で540,000円かかる工事に37,800円を投資しています。すると1日で工事が終わるため低コスト化が実現します。

従来工事価格の5～7%（表2. では7%）を投資して中規模工事をできるだけ多く消化させた場合には飛躍的な利益を生み出すことが解ります。

結果的に表3. の示す生産はコストをかけることなくできるのです。書いた私の方がビックリしました！

皆さまは低コスト化と高い生産力が実現するとともに強い競争力が得られます。さらに、技能者の意識変革・強化を求めます。

表1. 能力比較

A: 0.75KW汎用機 × 2台	A + 回収ツール
0. 24kg × 2 = 0. 48kg/分 <small>(メーカーカタログ値の回収能力は0. 24kgです)</small>	0. 5kg × 2 = 1. 0kg/分 <small>(回収ツールを使用することで回収能力は0. 5kgにUP)</small>

※回収能力は弊社HPTトップの動画でご覧いただけます。

表2. コスト比較 <工事例:ビル用マルチ×10台、R410A×300kg ※機材は表1. に準ずる>

	1日目のコスト	2日目のコスト
従来工事 ①工事価格 ¥540,000 ¥1,800/1kgと仮定	A 2～3人工+機材	B 2人工+機材
新工事 ②必要な投資金額 ¥37,800(①×7%)	C 2～3人工+機材+② B - ② = α ←低コスト化	α + 次の生産へ A + B ≥ C

表3. 生産力 <中規模工事を消化すると驚異的な効果を発揮する>

受注件数	1	2		
従来工事	売上高 ¥1,080,000-	コスト 従来工事コスト×2		
受注件数	1	2	3	4
新工事	売上高 <u>200%</u> ¥2,160,000-	低コスト化 新工事コスト×4		

私たちは技能者だけの組織です。約3年間の使用実績をへてこの技術を皆様へ丁寧に説明します。

今現在も実践中の他に類を見ないこの技術を、レンタルという形でご提案させていただきます。

見学可能な弊社の現場を観察していただくなど、確認してください。

有効かどうかははっきりしたら必要な時だけのレンタルツールとして使用してください。

同じ技能者のみなさん気軽にご連絡ください！ → 藤井 弘之